

活動： ジャッジの役割と、判定の視点を学ぶ。**【この学習を通して身につけたいこと】****①論理的思考力を養う目的は**

課題研究において、客観的で論理的に研究を進めていける素地をつくること。

②ディベートをすること、議論することは

相手の意見「肯定」/「否定」について文句をつけることではない。それは相手の価値観なので、それ自体を否定したり、人間性を否定することはしない。重要なのは、そう考えるに至った道筋について批判的にみて、疑問を投げかけ、相手とともに考えを深めていくことである。

③国際性とは

英語が使えること以前に、客観的で論理的なものの見方ができることである。

1. ジャッジとは？

ジャッジ=試合を判定する人。

ディベートの試合を最初から最後まで聞き、納得できた方に判定を行います。

判定後に、なぜ自分が肯定側（否定側）に投票（勝者として選ぶこと）したのか全員の前で解説します。

1-1 正解ではなく理由を解説

ジャッジの仕事は、正しいと思った方ではなく「より納得できた」と判断したチームに票を入れることです。

加えて、全員の前でその理由を解説します。

1-2 選手の目的はジャッジを説得すること

ディベートは、論理がないものに論理をつけようとするものではありません。ある論理を補強したり、崩したりするものです。つまり、何にでも理論を持ち込んで理屈っぽくすることはディベートではありません。

ディベートの試合は相手を言い負かすことではなく、第三者のジャッジを説得します。

相手からどんな攻撃を受けても、ジャッジから「あなたの議論のほうが相手の議論より説得力があると判断したから、あなたに投票しました」と言ってもらえれば、あなたは試合に勝ったことになります。

1-3 ジャッジから票を獲得する方法

サマリーでこれまでの議論を全て整理し、ジャッジに対して、「よって、この試合は、肯定側（否定側）に投票してください」と強くアピールすればよいのです。

決め手の一言を最後のサマリーでいうために、そこまでの議論があるわけです。

2. ジャッジがチェックすべき3つのポイント

- ① 議論が成立している理由を示しているか？
- ② 細かい争点に決着がつけられたか？
- ③ お互いの議論を比較しているか？

様々な議論がある中で、ひとつひとつの議論に決着をつけていくのがポイントです

お互いの議論を吟味してどちらの方が客観的な説得力が高いか、どちらに投票をするべきかを、判断材料や判定基準を元にして考え、ジャッジします



3. ジャッジの仕事 3つ

3-1 試合の振り返り・判定・アドバイス

3-2 判定の方法

①判定する理由になる議論がどれかを、まず明確にする。

メリット、デメリットをチェック。抑えるべきポイントは6か所であり、それぞれの主張と根拠です。
 その上でメリット、デメリットがゼロになった／限りなくゼロに近い／全体のバランスを見て著しく弱いと判断したらメリット、デメリットそのものを、判定の材料として採用しないことができます。

②争点に決着をつける

フローシートで、議論がよりやり取りされている箇所（争点になった箇所）の、個々の議論において、肯定側と否定側のどちらが論理的に優っているか、決着をつけます。

③議論が成立するか判断する

②の結果、メリット、デメリットの3要素が成立するか判断をします。

④比較をする

メリット VS デメリット、どちらの方が大きいか、ディベーターの出した比較基準を元に判断します。
 どうしてもなければ、ジャッジの介入で判断を下します。

3-3 ジャッジをするにあたって気をつけなければならないこと

- ・ 論題への偏見を捨てる。
- ・ ディベーターへの個人的感情を捨てる。
- ・ プレゼンテーション能力を判定の根拠に持ち込まない。
- ・ 判定しようとする試合の内容だけを根拠とする。
- ・ 自分の知識を持ち込まない。
- ・ ルール違反に厳しく対処する。特に、ディフェンスでのニューアギュメントは無視する。
- ・ 判定の基準を述べる。

4. ディベーターが気をつけること

Q. 「議論がかみ合わない」：かみ合った議論をするにはどのような点に気をつければよいのでしょうか？

A. 議論がかみ合うためには、肯定側／否定側の双方が、かみ合わせるための努力をしなければなりません！

以下の点に気をつけてください。

4-1 肯定側は論題の趣旨を十分検討し、論題を支持する立論をたてる。（立証責任）

論題の検討があいまいな場合に、肯定側の立論が論題を支持していないことがあります。

論題を十分検討してから、立論をたてましょう。

4-2 否定側は、肯定側の立論の不備を指摘し、それを証明する。（反証責任）

否定側立論で、肯定側立論の不備を指摘し、論点を絞り込むことが、議論をかみ合わせる実質的の第一歩です。

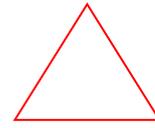
用意してきた主張だけを述べたのでは、論点が発散し、ディベートになりません。

準備してきた内容の9割は捨てる覚悟が必要です。

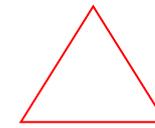
4-3 反駁では、肯定側／否定側ともに、相手の主張のどこが理論的に弱いのか、足りないのかを指摘する。

練習問題 解答例

解答例① 主張：日本の少子化問題は解決しつつある。
データ：大島村で出生率が3.0を上回っている。
論拠：出生率3.0は少子化解決につながる値。
であるが、論拠の信憑性が低い。大島村で出生率が高くても、日本全国で高いとは言えない。
データの事例があまりにも少なく、証明に十分なデータを根拠として示せていない。



解答例② 主張：焼き芋が売れると火事が増える。
データ：焼き芋の売り上げが多いと火事の件数も多い。
論拠：焼き芋をたくさん焼くと火事になる。
であるが、論拠が納得できるものではない他に納得のいく説明ができないかを指摘する。
そもそも冬だから焼き芋が売れ、乾燥しているから火事が起きているのかも知れない。



解答例③ 因果関係を示せていない。朝食も成績が良いのも、親が子供のケアを重視している家庭であるためと考えられる。よって、成績を上げるには朝食を食べるべきという証明にはならない。
論拠の不備を指摘する際は、他に合理的な説明ができないかという視点から考えるのが有効。

解答例④ ほうれん草に発がん性物質が入っていることを示しただけで、それが日常的な食生活でがんを発症するほどの量であることを示していない。よって、ほうれん草を食べるとがんになるとは言えない。

解答例⑤ 1件の事故しか示していない。この事故が、全自動運転車の技術に起因する問題であるという証明をしない限りは全自動運転車が危険とは言えない。

<演習問題>

年 組 番 氏名

論題 「日本は未成年者のスマートフォン（携帯電話）の使用を法律で禁止すべきである。」
について述べられた以下の立論について論証の不備を指摘し、理由と改善例を考えよう。

肯定の例

AD：ネット犯罪に巻き込まれない。

現状：未成年者が手軽にネット利用可能。詐欺サイト、出会い系などに知識の浅い未成年者はひっかかる。

発生：禁止することで、詐欺などにかかる確率は下がる。悪質な人、情報に出会ったり触れる機会が減る。

重要性：未成年者が安全に生活するために、スマホ等の使用は禁止すべき。

否定の例

DA：不便である。

現状：中学生、高校生が、必要なときに親に連絡することができる。勉強に活用できる。

発生：禁止により、連絡ができなくなり、不便。調べたいことが調べられずに、DAが発生する。

深刻：生活に支障を与え、無駄に時間がかかったり、勉強へも影響する。

<感想>